



哀しみのベラドンナ BELLADONNA

悪魔に身体を捧げ、異様な快楽の中で愛に泣くジャンヌ！
新鮮な題材を、世界に類を見ない大胆な手法で描くアニメ・スペクタクル！

アニメロマネスク
カラー作品

虫プロダクション=日本ヘラルド映画製作



アニメロマネスク

BELLADONNA

哀しみのベラドンナ

〈カラー作品〉虫プロダクション=日本ヘラルド映画製作



■ ジュール・ミシュレ「魔女」より(篠田浩一郎訳)



■スタッフ

制作……………渡辺忠美
演出……………山本暎一
脚本……………福田善之
美術原画……………山本暎一
アニメート……………深井国

音楽……………佐藤允彦
ナレーション……………杉井ギサブロー

■物語は……

声の出演……………
ジャヌヌ……………長山藍子
魔王……………仲代達矢
ジャン……………伊藤孝夫
領主……………高橋昌也
奥方……………しめぎ・しがこ
司祭……………中山千夏
ナレーター……………米倉齊加年

■ジュール・ミシュレの名著「魔女」を原作にした話題のアニメロマネスク誕生

欧洲中世史は、ローマ教会と貴族領主の歴史であり、農民たちはその完全な支配下で飢えと無知の暗黒を生きなければならなかつた。『魔女』は、その暗黒が生んだ特異な女たちだ。ローマ教会によつて迫害され、生きながら焼かれた『魔女』たちは、はたして邪悪と狂氣の使徒だったのか。いや、それはむしろ、暗黒からの人間の解放を、おのれの精神の反逆と、肉体の快楽の奪回をもつて行なおうとした最初の女たちではなかつたか。

豊富な実証とユニークな文体でそう主張したフランスの歴史家ジュール・ミシュレの名著「魔女」が、福田善之と山本暎一の大膽な脚色化によって、今「アニメロマネスク」の世界に華麗によみがえつた。

■アニメーション映像の常識を打ち破る暫
新年手法

「千夜一夜物語」、「クレオパトラ」に続く虫プロダクション=日本ヘラルド映画提携の第三弾だが、「前二作とは全く異質のアニ

メ・スペクタクルを狙う」(演出・山本暎一)という意図のもとに、編み出されたアニメーション映像の飛躍性と非日常性をフルに生かす絵画的な線と構図、ジュールな色彩処理、常識を破る静止画面の多用など、かつてない手法上の大胆な冒険が、秀抜な映像世界をつくり出している。

愛する夫ジャンに捧げるはずだったジャンヌの初夜は、神の名のもとに、領主をはじめとする家来たちの汚辱に踏みにじられた。こぼれんばかりの幸福に酔いしれていた二人を绝望の暗闇がすっぽりとつづんだ。ジャンヌは必死に深い闇をくぐりぬけようとした。その時、絶望の淵に沈むジャンヌの心の扉を叩くものがあつた。幻想の妖精——悪魔だった。

ジャンヌは拒みながらも半ば自暴自棄に邪宗の快樂に身を沈めていった。即刻、ジャンヌは『魔女』の烙印を押され、愛する夫にも見棄てられ村を追われた。吹雪く荒野を彷徨し、いばらが体を突き刺す原野を這い、ジャンヌは真赤なベラドンナが咲き乱れる花園にたどり着いた。絶望の淵から自力で這い上がり、もう何ものにも束縛されずに荒野に立つジャンヌの姿は神々しかつた。その頃、黒死病がヨーロッパ全土を覆い村人たちは神の重圧と共に困苦の極致にあつた。ジャンヌはベラドンナを精製して作つた薬草で人々を暗黒から救出した。一方、堅固を誇つた城中にも黒死病はしえび寄り、領主はジャンヌの腕を借りようとした。だがジャンヌは領主の頼みをきつぱり拒否した。領主は怒り狂いジャンヌを火あぶりの刑に処した。一個の肉体は滅びたが、ジャンヌの神への反逆の魂は、真赤なベラドンナの花のように人々の心にますます燃えさかつていった。

■アニメ界の精銳スタッフと豪華キャスト
演出の山本暎一は「ある街角の物語」、「クレオパトラ」などを手塚治虫と共に手がけた虫プロはえ抜きの気鋭であり、この「哀しみのベラドンナ」にアニメーション映像作家としての真価を賭けた。キャラクター・デザイ

ンには深井国、アニメートには杉井ギサブロー、実写には森山大道があたつてゐる。

声の出演は、長山藍子(ジャンヌ)、仲代達矢(魔王)、伊藤孝雄(ジャン)、それに高橋昌也、しめぎ・しがこ、新村礼子、そしてナレーターに中山千夏といつた顔ぶれだ。

■ジャズ界の鬼才佐藤允彦と、新星橋まゆみの話題の音楽

ジュールな映像を、ジャズ・ロックの躍動するリズムで盛り上げるのはジャズ界の鬼才佐藤允彦。また、その容姿と声に透明な感じを漂わせる話題の新星橋まゆみが、お馴染みの小林亜星、阿久悠のコンビからなる主題歌を、新人ばなれした歌唱テクニックで唄う。

■ベラドンナとは……

「ベラドンナ」とは、『美しい女』という意味だが、当時知られた毒草の名前でもあり、農民たちにとって唯一の医師であった魔女たちが、その毒性を逆利用して病人の治療にあてたという。

■「哀しみのベラドンナ」の制作意図を山本暎一監督は次のように語る

今、科学技術の文明が、頂点を迎えた形で現代がある。私にとってこの時代は、まさに終末的意味をしかもたない。しかし、私は希望を捨ててはいない。なぜなら、私はロボットではなく、まだ、まぎれもない人間で、狂気のかけらくらいは残つてゐるからである。そう考えた時、私はミシュレの「魔女」を映画にしようと思いつた。このような精神世界をモチーフとして描出ししようとするとき、アニメーションはもつてこいの技法である。私は幻想の産物である「サタン」にキャラクターとしての形を与えると共に、彼を含めた精神世界の活動にアニメートを使用し、日常生活描写はスチール画にするという、動きの図式化をおこなつた。「動きがない」ということも「動き」のひとつであつて、その意味で、動きを性格的に対比させたのである。これらを、白を基調にした水彩画の手法と日本の伝統的な絵巻物ふうのコラージュ構成で、展開してみた。

近日ロードショー

渋谷宝塚
(461)8779